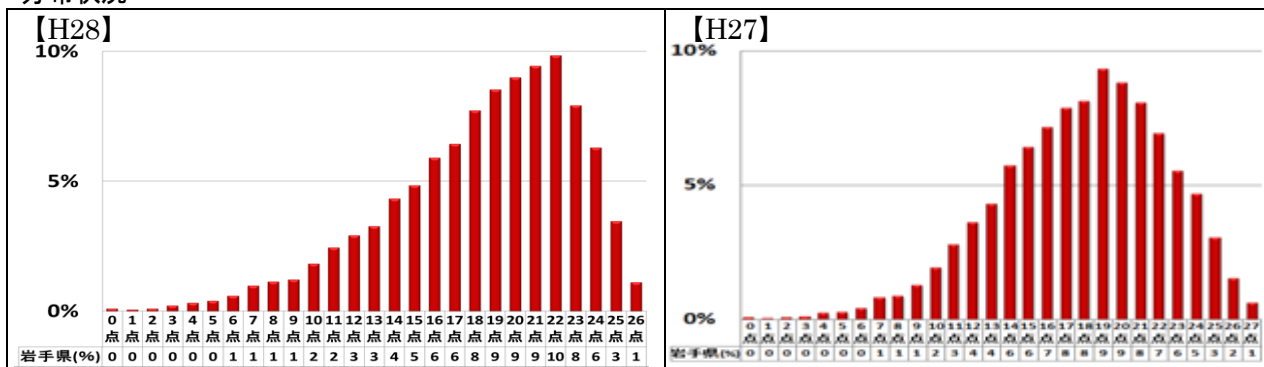


授業改善の手引 中学校第 2 学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数は昨年度より 1 問減の 26 問。正答数の最頻値は 22 問，平均正答数は 18 問です。昨年度の分布と比較して山が右側に移動しています。また，正答数 20 問以上の層が増えています。

(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領 域 等	正答率 () は H27, () は H26
話すこと・聞くこと (5 問)	74% (67%) (62%)
書くこと (2 問)	55% (62%) (60%)
読むこと (8 問)	57% (53%) (54%)
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (11 問)	81% (76%) (70%)
活用 (7 問)	56% (51%) (52%)

(3) 結果概要

- 「話すこと・聞くこと」領域の正答率は 74%と年々上昇している状況です。特に、「話し手の工夫を理解して聞く」の正答率は 75%と改善が見られ好ましい状況です。
- 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「語句に関する類別の理解を深める」問題の正答率は 79%と改善が見られよい状況です。
- 「書くこと」領域の正答率は 55%と昨年度より下がっている状況です。無解答率も約 20%と昨年度より高くなっており，依然として自分の考えを記述することについて課題が継続しており，特に指導の工夫が必要な点です。
- 「読むこと」領域の正答率は 50%台が続いており，指導の工夫が必要な状況です。
- 活用を意識した問題においては，「読むこと」領域の「文章の展開を確かめながら要旨をとらえる」問題の正答率は 35%であり，正答率が改善されず，課題が継続しています。また，「書くこと」領域の「資料から課題を見つけ，根拠を明確にして自分の考えを書く」問題の正答率も 49%であり，依然として指導の工夫が必要です。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マウスを表す)

小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較
○ 4(話・聞)	75	4	● 23(読)	35	▲1
○ 13(伝国)	79	28	◇ 24(読)	49	13
○ 20(読)	79	27	● 26(書)	49	▲6

- 小問 20 は，正答率が一昨年，昨年，今年と徐々に上昇しており，改善が見られる状況です。
- 小問 26 は，依然として正答率が 50%前後と低い状況が続いており，指導の工夫が必要です。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)						
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	ア	1	話の内容の大体をとらえて聞くことができる。	2年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用	69					29	69	3
		イ	2	話の内容の大体をとらえて聞くことができる。	2年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用	60					35	60	5
	(2)		3	話の内容の大体をとらえて聞くことができる。	2年「話・聞」(1)エ	話・聞		91	6	2	91	1	0		0
			4	インタビューの仕方に気をつけて聞くことができる。	2年「話・聞」(1)エ	話・聞	経年	75	8	6	11	75	0		0
			5	話の中心をとらえて聞くことができる。	2年「話・聞」(1)エ	話・聞		75					16	75	9
2	(1)	①	6	漢字「淡い」を正しく読むことができる。	2年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		90					6	90	4
		②	7	漢字「治療」を正しく読むことができる。	2年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		99					1	99	1
		③	8	漢字「優越感」を正しく読むことができる。	2年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		72					22	72	7
	(2)	①	9	漢字「貧しい」を正しく書くことができる。	2年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		76					10	76	14
		②	10	漢字「牛乳」を正しく書くことができる。	2年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		94					4	94	2
		③	11	漢字「大規模」を正しく書くことができる。	2年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		62					26	62	12
3	(1)		12	漢字の部首について理解することができる。	2年「伝国」(1)ウ(ア)(イ)	伝国		87	4	87	6	2	0		0
	(2)		13	文の成分の関係について理解することができる。	2年「伝国」(1)イ(ウ)	伝国	経年	79	8	8	5	79	0		1
	(3)		14	敬語の働きについて理解し、正しい敬語に直すことができる。	5・6年「伝国」(1)イ(ク)	伝国		87					8	87	4
	(4)		15	熟語の組み立てについて理解することができる。	5・6年「伝国」(1)イ(エ)	伝国		81	81	6	4	8	0		0
	(5)		16	故事成語の意味について理解することができる。	5・6年「伝国」(1)イ(イ)	伝国		68	5	68	15	10	0		1
4	(1)		17	登場人物の行動から、心情をとらえることができる。	2年「読」(1)イ	読		53	53	8	33	5	1		0
	(2)	A	18	登場人物の行動から、心情をとらえることができる。	2年「読」(1)イ	読	活用	66	12	13	6	66	1		2
		B	19	登場人物の行動から、心情をとらえることができる。	2年「読」(1)イ	読	活用	53					29	53	18
	(3)		20	文章の表現の効果をとりえて読むことができる。	2年「読」(1)ウ	読	経年	79	6	9	79	5	0		1
5	(1)		21	文章の展開に即して内容のつながりをとらえることができる。	2年「読」(1)イ	読		71	71	8	9	9	3		1
	(2)		22	文章の展開に即して内容をとらえることができる。	2年「読」(1)イ	読		54	18	54	18	8	1		1
	(3)		23	文章の展開を確かめながら要旨をとらえることができる。	2年「読」(1)イ	読	経年活用	35					42	35	24
	(4)		24	段落の役割を押しえながら、文章の構成や展開をとらえることができる。	2年「読」(1)ウ	読	経年	49	11	25	49	10	1		4
6			25	資料の内容を読み取り、自分の立場を明らかにして書くことができる。	2年「書」(1)イ	書	活用	62					18	62	20
			26	資料から課題を見つけ、根拠を明確にして自分の考えを書くことができる。	2年「書」(1)ア、ウ	書	経年活用	49					30	49	21
全体正答率								71							

2 指導のポイント

(1) 文章全体と部分との関係に着目して要旨をとらえ、筆者のものの見方や考え方について自分の考えをもつ学習活動を行いましょう。

ア 問題の概要 【経年比較・活用問題】

⑤ (3) 文章の展開を確かめながら要旨をとらえる。 第2学年「読」(1)イ 正答率 35%

イ 誤答分析

(ア) 誤答率は42%、無解答率は24%でした。誤答を分析すると、答えるべき2つの理由のうち1つの理由しか記述されていない解答が多く見られました。これは「すなわち」という言葉に着目せず、「未知の世界」と「既知の世界」の関係性をとらえることができなかつたためであると考えられます。

(イ) この問題では、文章全体を俯瞰して読んだ上で、④・⑤段落にある「主体の確立」や『自分の「世界』』、『自分がかかわろうとしている「世界』』などの言葉に着目して読み、要旨をとらえることが求められます。文章全体の論の展開に着目せず、⑥段落だけに着目し、キーワードとなる「未知」「既知」の言葉のみを部分的に書き出して要旨を組み立てていることが誤答へつながつたと考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 小5-5(5)】

(ア) 要旨をとらえるためには、まず、第1学年の既習事項である「事実と意見などの読み分け」をし、各段落が文章全体の中で果たす役割についてとらえることが必要です。その上で、叙述の順序がどのように筆者の考えに説得力をもたらしているのか、事実が根拠としてどのように主張に結び付いているのかなどを考へながら読むことが大切です。

(イ) 筆者のものの見方や考え方について自分の考えをもつ活動を行う際には、自分の知識や経験と重ねるだけでなく、複数の叙述を関連付けながら筆者の説得力ある述べ方の工夫を話し合ったり、優れた論の展開が読み手にどのような効果をもたらしているのかを交流し合ったりするなど、書き手の意図を意識した学習活動も効果的です。

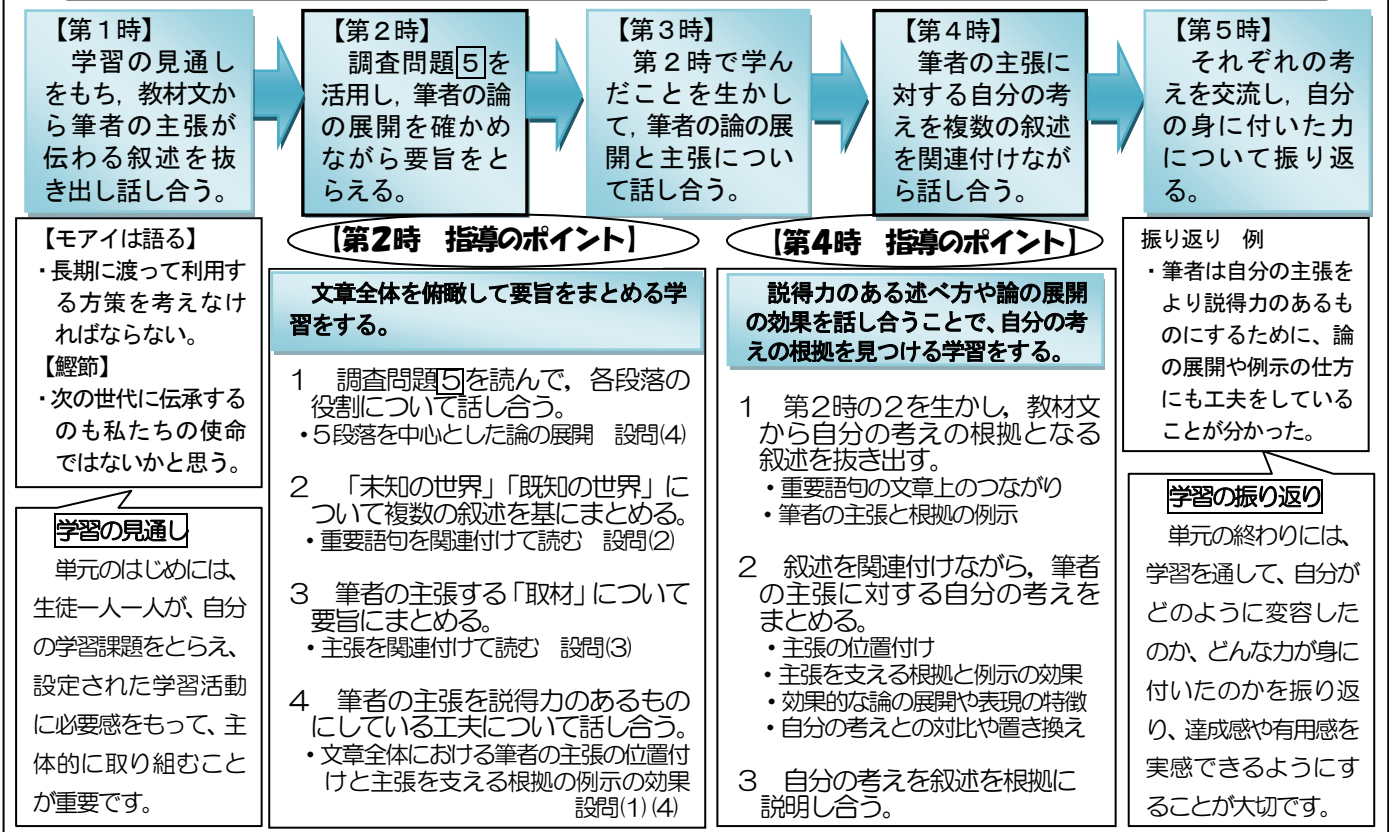
【論説などの文章を読み、筆者のものの見方や考え方について自分の考えを述べる活動を位置付けた展開例】

教材例 モアイは語る—地球の未来 安田 喜憲「光村図書」、経節—世界に誇る伝統色 小泉 武夫「東京書籍」

(平成28年度岩手県中学校学習定着度状況調査学校第2学年国語 ⑤を活用して)

「C 読むこと」の指導事項 イ を言語活動例 ウ を通して指導する場合の評価規準例

「評論の文章を読んで、文章の構成や展開の工夫について、根拠となる部分を挙げて自分の考えをもっている。」



(2) 複数の資料から読み取ることができる内容を話し合ったり根拠が明確な文章を書いたりする学習活動を行いましょう。

ア 問題の概要 【経年比較・活用問題】

⑥ 資料から課題を見つけ、根拠を明確にして自分の考えを書く。第2学年「書」(1)ア、ウ正答率48.8%

イ 誤答分析

(ア) この問題の誤答率は30%、無解答率は21%でした。誤答を分析すると、①自分の立場(どちらかに賛成)のみ明らかにしている②資料を自分の考えの根拠とせず、自分の意見のみを述べている③賛成である理由の根拠となる資料は示しているが、その資料が意見を支える根拠としてふさわしくないというような誤答が多く、自分の考えの根拠を明確にして示して自分の意見を書くことができなかった生徒が多く見られました。

(イ) この問題では「自分の立場に対する根拠を二つの資料から読み取る」と「読み取ったことを根拠として自分の考えを記述する」ことが求められます。「資料の内容を根拠に挙げながら書く」ための、資料から読み取った内容の取り上げ方とそれを基にした自分の意見を効果的に伝える書き表し方の理解が不十分だったことが、自分の考えを明確にして書くことの不十分さにつながったと考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 小5-⑥】

(ア) 第2学年では、その学習を受けて、自分の考えや意見を相手に伝えるためには、根拠となる事実や事柄を客観的な資料を用い具体的に示すことが大切であることを学習しています。「意見を述べる文章を書く」ためには、「①どのような事柄について取り上げるかを決める」、「②論点について賛成か反対かなど自分の立場を決める」、「③自分の考えの中心や主張を明確にして書く」ように指導する必要があります。

(イ) 根拠として示した内容が自分の考えを支えるものになっているか、グループで図表やグラフなどの複数の資料から読み取ることができる内容を吟味したり、自分の考えが伝わる文章になっているか話し合ったりする学習活動も効果的です。

【複数の資料から読み取ることができる内容を話し合ったり根拠が明確な文章を書いたりする展開例】

(平成28年度岩手県中学校学習定着度状況調査 中学校第2学年国語 ⑥を活用して)

学習活動	指導のポイント
1. 本時の課題を把握する。 山口さんの意見文をより説得力のある意見文に書き直そう。	☞本時は、山口さんの意見文を書き直す言語活動を通して、根拠を明確にした意見を述べる文書を書く力を身に付けます。(川原さんの意見でも可)
2. 山口さんの意見文の構成をとらえる。 山口さんが自分の意見を伝えるために具体例として何を取り上げて記述しているかを考え、2つの資料を読み取ります。	意見 地域の芸術を発展させるためには、もっといろいろな方法で催し物の情報が得られるようにしたらよい。 具体例① テレビやポスターから情報を得ている自分の失敗談を述べている。 具体例② 情報を得るための方法に目を向けて意見を述べている。
3. 山口さんの意見をより説得力のある意見文にするためにどうしたらよいか話し合う。(グループ) 山口さんが自分の意見の根拠として示した内容や2つの資料から読み取った内容の妥当性を学び合います。	例① 自分の体験談から、催し物の情報が見つげにくいことを書いているけど、見つけにくいと感じている人が15%いることを書くと説得力が増すよね。 例② 「いろいろな方法」の「いろいろな」が具体的に書くことができるといいよね。資料から地域の広報誌の情報の充実を望む人が多くいることを付け加えるのはどう？ 例③ 「地域の文化芸術にどのようなものがあるかわからない」と答えている人がいることを根拠にして意見を書いたらどうか。
4. グループで話し合われた内容を交流し、より説得力のある意見文にするためポイントを確認する。	☞この展開例の他に、2人の意見文を比較してよりよい構成を検討したり、生徒が実際に資料をもとに書いたりする展開もあります。生徒の実態に合わせて指導しましょう。
5. これまでの学びをもとに山口さんの意見文を書き直す。(個)	
6. 書いた意見文を読み合い、説得力のある意見文に書き直すことができたかよさを伝え合う。(ペア)	
7. 本時の学習を振り返る。	